

科目名	手技実技 3							年度	2025
英語科目名	Hand Therapy Practice 3							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 2 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	大関千佐子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		鍼灸師		
【科目の目的】 ・按摩の各手技を身につける ・ベッド、マッサージチェア、マットなど施術環境の違いにも対応できる技術を身につける ・指頭感覚を養い、鍼灸施術にも役立てていく ・紅華祭での実習に備えマッサージチェアを使用した施術を習得する									
【科目の概要】 ・按摩の技術を身につけ、臨床の幅を広げ、鍼灸施術にも生かせるように学習していく									
【到達目標】 A. 按摩の基本手技が身についている B. 体重移動やリズムが適切である C. 解剖学的知識をもとに、施術部位や筋肉を的確に施術できる D. 左右圧の差がなく適正圧で施術できる E. 叩打法が身についている									
【授業の注意点】 授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることができない。講義時間無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席扱いはない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。									
評価基準＝ループリック									
ループリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	按摩の7つの基本手技を習得し実践することができる	基本手技を理解し、揉捏法は身につけている	半分以上の基本手技は身につけている	揉捏法が身につけていない	すべての手技が不十分である				
到達目標 B	体重移動で圧をコントロールでき、一定のリズムで揉むことができる	体重移動で適正圧は入るが、リズムが一定でない	リズムは一定だが体重移動が少ない	圧やリズムにムラがある	圧が入らず、リズムも一定でない				
到達目標 C	解剖学的な理解ができていて、施術部位や筋肉を適切に把握できる	解剖学的な知識は身につけている	患者や施術部位により筋をとらえられないことがある	探りながらでないと、施術部位を把握できない	施術部位が把握できていない				
到達目標 D	左右の圧の差がなく適正圧で施術できる	施術部位によって左右差が出る	利き手でない方の圧が常に弱い	左右の圧の差が大きい	左右とも圧が入らない				
到達目標 E	各種の叩打法が身につけている	よく使用する手技は身につけている	時々リズムが乱れる	強弱やリズムが乱れることが多い	叩打法が身につけていない				
【教科書】 自作プリント等									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験を中心に平常授業態度、課題提出状況などを加味して評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

